

■ ピワ・・・

ビワの花は11月の終わり頃から咲き始め、12月には良い香りを放ちながら盛りとなります。ヤツデ同様に、花の少ない時期に開花するのはとても賢い生き方だと言えるでしょう。

ビワの花はゴワゴワとした質感があり、同じバラ科のサクラとは違いが大きいように思われます。ところが、じっくりと眺めてみると、5枚の花びらがあったり、中心部に20～40本もおしべがあったり、とサクラの花との共通点が多くあります。



果実は半年以上をかけて少しずつ実を太らせていき、6月頃に実る初夏の果物です。と言っても、中の種子がとても大きく、食べる部分が少ないのは果物としての品種改良を強く望みたいものです。それに、生産量も減ったせいで、高級フルーツの仲間入りをしているのには、やや不満があります。

また、「桃栗3年、柿8年」ということわざがありますが、実はこれには続きがあって、「ビワは9年でなりかねる」となります。それほど、実はなかなかできにくいもので、当団地でも10号棟西側に1本ありますが、実ったところを見たことはありません。

若い枝や葉、がくは褐色の綿毛に覆われています。また、表面が白い軟毛で覆われた実が、ぶどうのような房になることなどから、学名を羊毛とブドウの房を表わす「Eriobotrya (エリオボトリア)」と言います。

葉は汗疹や捻挫、打撲に効くとして古くから漢方薬として広く使われています。ビワの名前は、この葉の形が楽器の琵琶(びわ)に似ているところから付いたものですが、「枇杷」の字は漢名に由来しています。